Ⅳ　児童アンケートと教科問題、教科横断型問題結果との関係

児童アンケート結果と平均正答率と相関関係(※)があるものを示しました。

(※)2つの項目の間の何らかの関係性のこと。因果関係を示すものではありません。

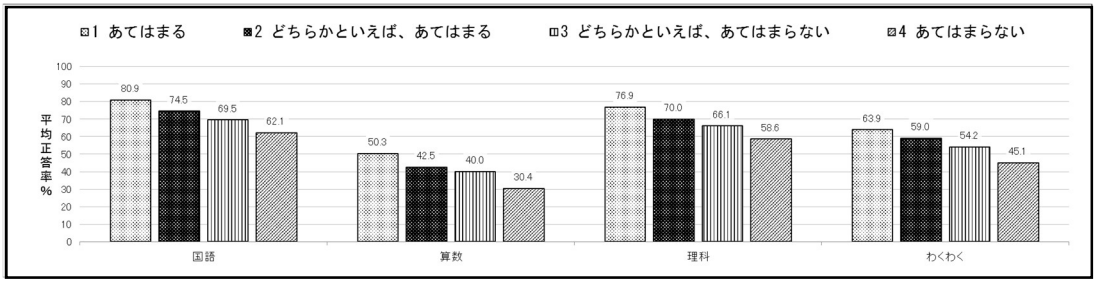
左から順に「①当てはまる」「②やや当てはまる」「③どちらともいえない」「④やや当てはまらない」「⑤あてはまらない」と回答した児童の平均正答率を示しています。

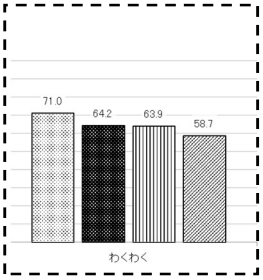
1 あてはまる　2 ややあてはまる　3 どちらともいえない　4 ややあてはまらない　5 あてはまらない

結果グラフを囲む罫線が実線部は５年生について、点線部は６年生のデータを示しています。

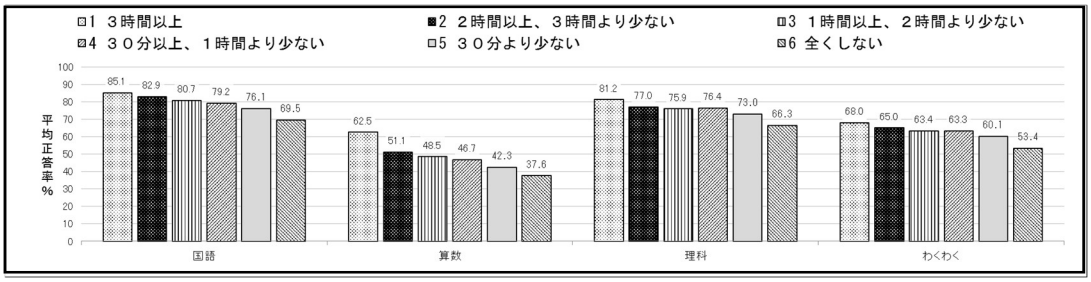
① 児童の生活習慣等と教科問題、教科横断型問題結果との関係

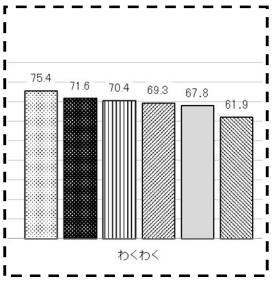
朝食を毎日食べている



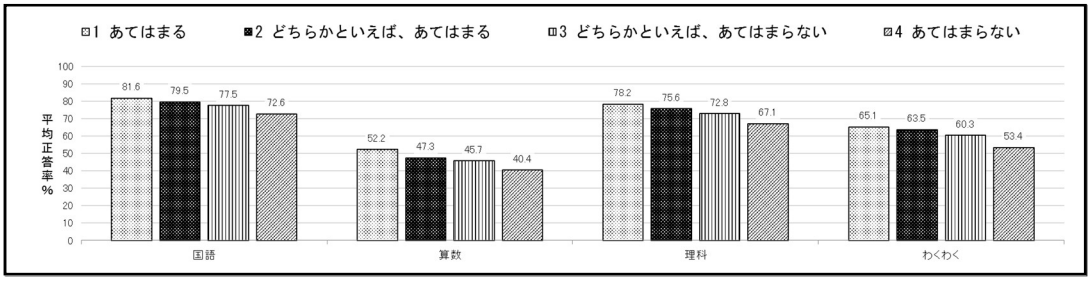


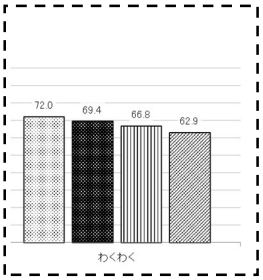
ふだん（月曜日から金曜日）１日に、学校の授業や宿題以外に、およそどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）





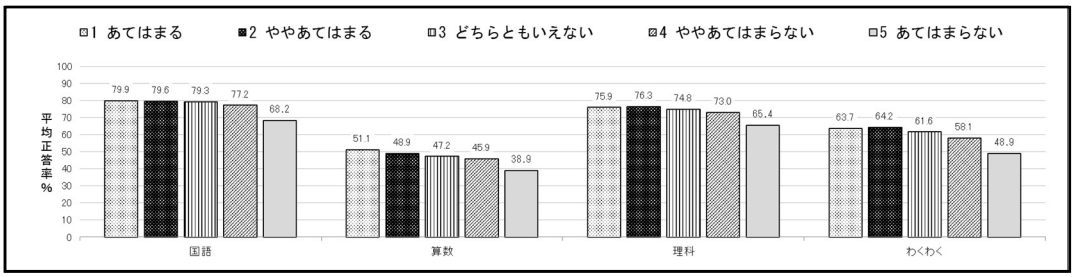
テレビや新聞等でニュースを見ている

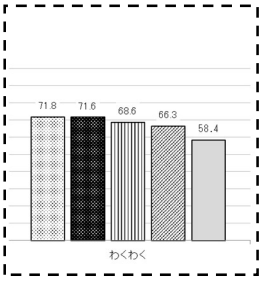




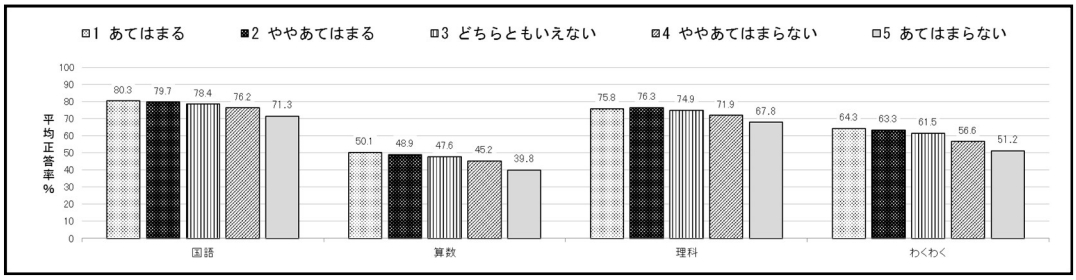
② 「未来に向かう力」「好奇心」と教科問題、教科横断型問題結果との関係

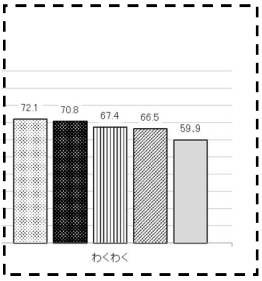
難しいことがあっても、あきらめない



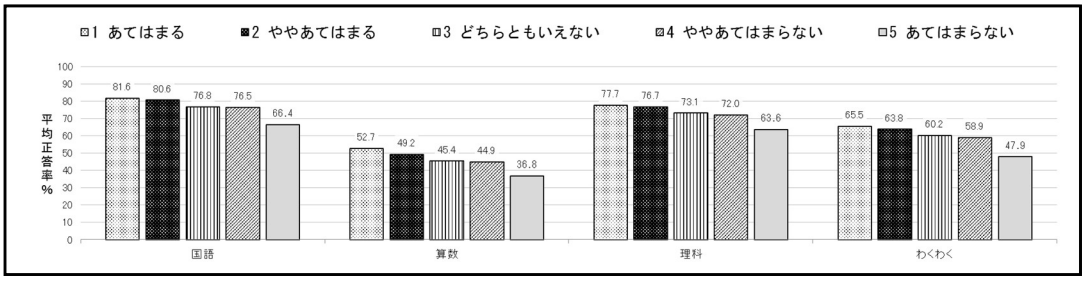


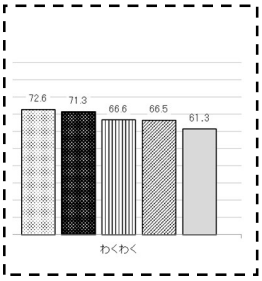
何事にも一生けんめい努力する





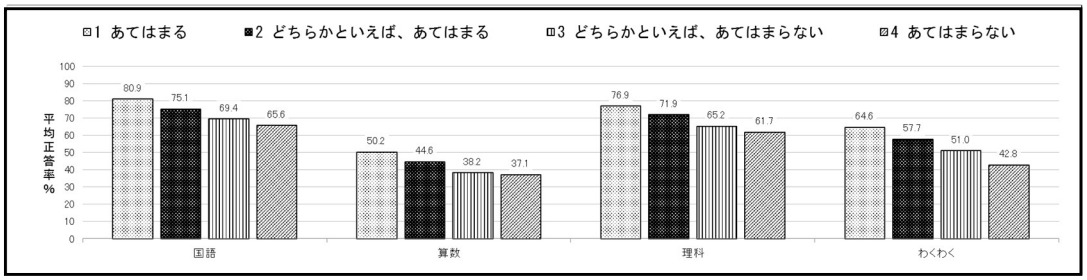
自分と違う考え方の人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているかをわかろうとする

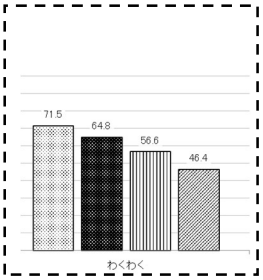




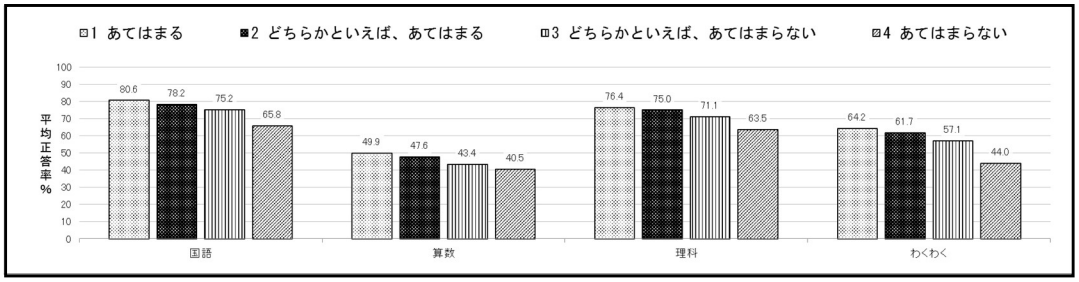
③ 児童の学校生活や学習状況と教科問題、教科横断型問題結果との関係

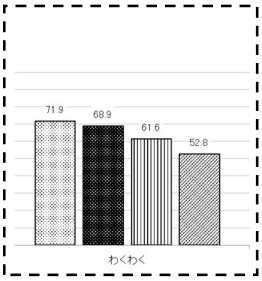
黒板に書かれたことをノート等に写している



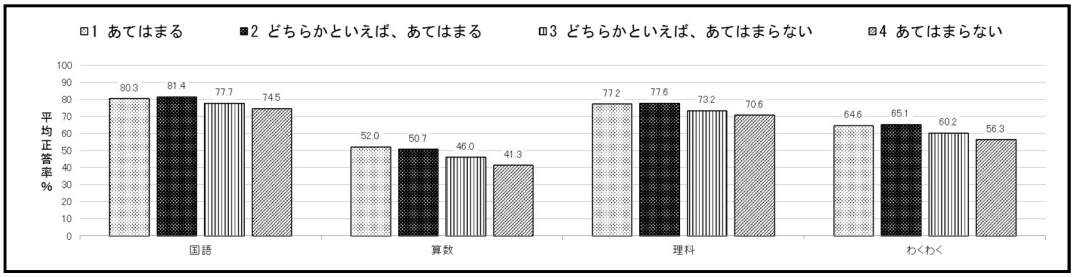


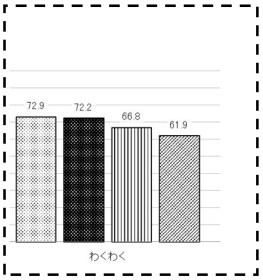
話し合いをするとき、友だちの意見を最後まで聞いている





話し合う場面で自分の考えを広げたり、深めたりしている





<u>児童アンケート結果と教科問題・教科横断型問題結果とのクロス集計から</u>

児童の家庭での生活習慣・学習状況とのクロス集計からは、規則正しい生活である「朝食を毎日食べている」ことが平均正答率の高さに関係があることが示されました。また、「平日、学校の授業や宿題以外に勉強をしている時間が長い」ことや「テレビや新聞でニュースに触れる機会が多い」ことが平均正答率の高さに関係しています。

非認知能力「未来に向かう力」・「好奇心」とのクロス集計からは、「あきらめない」で「何事にも一生けんめい努力する」粘り強さや「自分と違う考え方の人と話しているときに相手の考えを分かろう」と相手を理解することなどが、平均正答率の高さに関係しています。

これらの結果から豊中市の児童にとって、学校や家庭における児童の学習場面における粘り強く取り組むための支援や対話を用いた授業、好奇心を大切にした学習支援などの教育的効果が考えられます。

児童の学校生活や学習状況とのクロス集計からは、授業で「ノートをとること」や、効果的な「話し合い活動」が平均正答率の高さに関係していることから、ノートや一人一台端末を活用し、自分の考えを表現しながら、資料から読み取れることを根拠にしたり、友だちの意見と比較したりするなど、考えを深めたり広げたりすることの重要性が見られます。